



# 认知语义学视角下的 日语复合动词研究

A Study on Japanese Compound Verbs from the  
Perspective of Cognitive Semantics

杨晓敏 著

非外借

 復旦大學 出版社



# 认知语义学视角下的 日语复合动词研究

A Study on Japanese Compound Verbs from the  
Perspective of Cognitive Semantics

杨晓敏 著

 復旦大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

认知语义学视角下的日语复合动词研究/杨晓敏著. —上海: 复旦大学出版社, 2019. 7  
ISBN 978-7-309-14144-3

I. ①认... II. ①杨... III. ①日语-动词-研究 IV. ①H364.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2019)第 017317 号

认知语义学视角下的日语复合动词研究

杨晓敏 著

责任编辑/王汝娟

复旦大学出版社有限公司出版发行

上海市国权路 579 号 邮编: 200433

网址: fupnet@fudanpress.com <http://www.fudanpress.com>

门市零售: 86-21-65642857 团体订购: 86-21-65118853

外埠邮购: 86-21-65109143 出版部电话: 86-21-65642845

常熟市华顺印刷有限公司

开本 787×1092 1/16 印张 23 字数 380 千

2019 年 7 月第 1 版第 1 次印刷

ISBN 978-7-309-14144-3/H·2882

定价: 85.00 元

---

如有印装质量问题, 请向复旦大学出版社有限公司出版部调换。

版权所有 侵权必究

## 序

本書は日本語の複合動詞について認知言語学の角度から論じたものである。近年複合動詞の研究は花盛りで、生成文法、認知言語学、語構成論、構文論、対照言語学、教育文法、誤用分析、言語習得論など様々な観点から研究が行われている。このような中であって、本書は理論研究とりわけ認知言語学の観点から「一切る」、「一かける」、「打ち一」、「取り一」、「押し一」、「一出す」、「一上げる」の多義構造を分析している。認知言語学と銘打った研究の中には、イメージスキーマ、メタファー、メトニミー、シネクドキーなどの専門用語を散りばめているだけで、本当にそのような派生関係があるのか疑わしい論考もある。これに対し、本書では格関係、前-後項動詞の語義関係、自他性、意志性などを綿密に検討したうえで多義構造を捉えており、説得力のある説明が展開されている。

本書は純粋に日本語研究の成果として書かれたものであるが、日本語教育の観点からも有益な示唆が得られるものとなっている。これは著者が復旦大学で日本語を教える日本語教員であるとともに、著者自身が日本語学習者として日本語を見てきたことと関係すると思われる。複合動詞の中には「一始める」や「一疲れる」のように意味が単一で、接続する動詞の意味が分かれば理解しやすいものもあれば、「一切る」や「一かける」のように接続する動詞の意味が分かっても全体の意味が分かるとは限らないものもある。本書で取り上げられた複合動詞はまさに後者のタイプで、豊富な例文と平易なイメージ図を使って、理論のための理論に陥らない分かりやすい説明がなされている。

このように本書は単に複合動詞の事例研究であるだけでなく、複合動詞の研究方法を示した貴重な一冊でもあり、日本語教育の現場に役立つ実用的な一冊ともなっている。

筆者が著者の楊曉敏さんと知り合ったのは2005年9月のことである。当時楊曉敏さんは上海外国語大学修士課程の学生で、名古屋外国語大学へ1年間の交換留学に来ていた。その時、筆者は非常勤講師として楊曉敏さんのクラスを担当した。このクラスは上海外国語大学、北京外国語大学、天津外国語大学、大連外国語大学、西安外国語大学の大学院から来た学生が集まった特別編成クラスで、受講生たちはみな頗る優秀な人たちであった。その中でも楊曉敏さんは文法に関心があり、毎時間熱心に文法について熱く議論していた。楊曉敏さんとはそれ以来ずっと交流を続けており、今でも学会などで会うたびに親しくさせてもらっている。楊曉敏さんの日本語に対する鋭い観察力には驚かされるばかりで、いつも新鮮な刺激を受けている。本書は読者の皆様にもそのような刺激を分け与えることであろう。

名古屋大学教授 杉村泰

# 目 录

第一章 序章 .....	1
1.1 本研究的背景 .....	1
1.2 有关复合动词的研究综述 .....	8
1.2.1 体系性研究 .....	8
1.2.2 语义性研究 .....	14
1.2.3 基于复合动词习得状况的研究 .....	16
1.2.4 现有研究的主要遗留问题 .....	18
1.3 本研究的立场 .....	20
1.3.1 多义研究的理论背景 .....	20
1.3.1.1 原型理论 .....	21
1.3.1.2 图式理论 .....	24
1.3.1.3 比喻理论 .....	30
1.3.1.4 语法化理论 .....	32
1.3.2 多义研究和复合动词研究的结合 .....	34
1.4 本研究的构成 .....	36
第二章 日语复合动词的基本特征 .....	38
2.1 复合动词前项的基本特征 .....	38
2.1.1 前项动词的分布特点 .....	38
2.1.1.1 从格看前项的分布特点 .....	40
2.1.1.2 从语义特征看前项的分布特点 .....	42
2.1.1.3 从所属领域看前项的分布特点 .....	42
2.1.2 前项的语义扩展特点 .....	43
2.2 复合动词后项的基本特征 .....	44
2.2.1 后项动词的分布特点 .....	44
2.2.2.1 从格看后项的分布特点 .....	45

2.2.2.2	从语义特征看后项的分布特点	46
2.2.2.3	从所属领域看后项的分布特点	46
2.2.2	后项的语义扩展特点	47
2.3	复合动词的种类	61
2.3.1	现有研究成果中的分类	61
2.3.2	基于语义的复合动词分类	62
2.3.2.1	第一集团及其下位分类	63
2.3.2.2	第二集团及其下位分类	67
<b>第三章</b>	<b>复合动词构成要素多义性的句法体现</b>	73
3.1	从动词对名词的支配能力看前后项的语义变化	73
3.2	从动词的语义结构看前后项的语义变化	78
3.3	从动词的自他性看前后项的语义变化	87
3.4	从动词的意志性看前后项的语义变化	93
3.5	个例分析	97
3.5.1	「一切る」的多义性及其句法特征	97
3.5.2	「一かける」的多义性及其句法特征	99
<b>第四章</b>	<b>复合动词形成及语义扩展背后的隐喻</b>	103
4.1	复合动词中的隐喻	103
4.2	结构性隐喻	105
4.3	方位性隐喻	109
4.3.1	方位性隐喻“上/下”	110
4.3.2	方位性隐喻“内/外”	118
4.4	本体性隐喻	123
4.5	感觉性隐喻	131
<b>第五章</b>	<b>复合动词形成及语义扩展背后的意象图式</b>	137
5.1	复合动词中的意象图式	137
5.2	意象图式适用领域的变化	138
5.3	意象图式的转换	146
5.3.1	语义扩展过程中的终点焦点	147
5.3.2	语义扩展过程中的结果焦点	149
5.3.3	语义扩展过程中的方向焦点	153

5.3.4	语义扩展过程中的状态焦点 .....	157
<b>第六章</b>	<b>复合动词前项语义虚化研究 .....</b>	<b>163</b>
6.1	复合动词中「打ち一」语义的“虚”与“实” .....	163
6.1.1	问题的提出 .....	163
6.1.2	核心图式理论下「打つ」的语义整理 .....	165
6.1.3	复合动词前项「打ち一」的语义及其抽象化 .....	168
6.1.4	后项动词的语义特征与「打ち一」的语义虚化 .....	171
6.1.5	“核心图式一致性原则”与「打ち一」的语义虚化 .....	174
6.1.6	「打ち一」语义虚化后的表达功能 .....	176
6.2	复合动词中「取り一」语义的“虚”与“实” .....	177
6.2.1	问题的提出 .....	177
6.2.2	核心图式理论下「取る」的语义整理 .....	179
6.2.3	复合动词前项「取り一」的语义及其抽象化 .....	182
6.2.4	后项动词的语义特征与「取り一」的语义虚化 .....	184
6.2.4.1	后项具备移动性、作用性、他动性 .....	185
6.2.4.2	后项不具备移动性 .....	185
6.2.4.3	后项不具备作用性 .....	187
6.2.4.4	后项不具备他动性 .....	187
6.2.5	“核心图式一致性原则”与「取り一」的语义虚化 .....	189
6.2.6	「取り一」语义虚化后的表达功能 .....	191
6.3	复合动词中「押し一」语义的“虚”与“实” .....	194
6.3.1	问题的提出 .....	194
6.3.2	核心图式理论下动词「押す」的语义整理 .....	195
6.3.3	复合动词前项「押し一」的语义及其抽象化 .....	199
6.3.4	后项动词的语义特征与「押し一」的语义虚化 .....	205
6.3.5	对「押し+表主体移动的自动词」的重新审视 .....	207
<b>第七章</b>	<b>复合动词后项的多义性研究 .....</b>	<b>210</b>
7.1	复合动词后项「一出す」的多义性 .....	210
7.1.1	问题的提出 .....	210
7.1.2	有关「一出す」的研究概述 .....	211
7.1.3	核心图式理论下「出す」的语义整理 .....	212
7.1.4	复合动词后项「一出す」的多义性 .....	219



7.1.4.1	继承图式 7-3 的「一出す」	220
7.1.4.2	继承图式 7-4 的「一出す」	223
7.1.4.3	继承图式 7-5 的「一出す」	224
7.1.4.4	方向焦点下的「一出す」	225
7.1.4.5	继承图式 7-6 的「一出す」	226
7.1.4.6	继承图式 7-7 的「一出す」	227
7.1.4.7	继承图式 7-8 的「一出す」	228
7.1.4.8	继承图式 7-9 的「一出す」	229
7.1.5	「一出す」的多义性呈现出的句法特征	233
7.1.5.1	丧失对名词的支配能力	233
7.1.5.2	丧失他动性	234
7.1.5.3	丧失意志性	236
7.1.5.4	丧失方向性	238
7.1.6	复合动词「V <sub>1</sub> 出す」成立背后的隐喻	241
7.1.7	小结	244
7.2	复合动词后项「一上げる」的多义性	245
7.2.1	问题的提出	245
7.2.2	有关「一上げる」的研究概述	247
7.2.3	核心图式理论下「一上げる」的语义整理	248
7.2.4	复合动词后项「一上げる」的多义性	254
7.2.4.1	继承图式 7-28 的「一上げる」	255
7.2.4.2	继承图式 7-30 的「一上げる」	257
7.2.4.3	继承图式 7-31 的「一上げる」	258
7.2.4.4	继承图式 7-32 的「一上げる」	260
7.2.4.5	继承图式 7-33 的「一上げる」	261
7.2.4.6	继承图式 7-34 的「一上げる」	262
7.2.4.7	指向上方的「一上げる」	263
7.2.5	「一上げる」的多义性呈现出的句法特征	266
7.2.5.1	丧失对名词的支配能力	266
7.2.5.2	丧失移动性	267
7.2.5.3	丧失他动性	270
7.2.5.4	丧失意志性	272
7.2.6	复合动词「V <sub>1</sub> 上げる」成立背后的隐喻	275
7.2.7	小结	278

第八章 终章 .....	279
8.1 本研究的回顾 .....	279
8.2 今后的研究课题 .....	283
8.2.1 本体研究 .....	284
8.2.2 汉日对比角度的研究 .....	285
8.2.3 二语习得角度的研究 .....	288
主要参考文献 .....	291
附录:日本国立国语研究所发布的『複合動詞レキシコン』 (2015年11月) .....	302

# 第一章 序 章

## 1.1 本研究的背景

日语中存在大量以“动词1连用形+动词2”形式出现的复合动词。根据森田良行(1978)的调查,『例解国語辞典』中收录的复合动词词数为1 817词,占到日常使用动词的40%左右,若再加上「一すぎる」等词典里虽未收录、但可以跟在绝大多数动词后构成复合动词的情况,复合动词将不计其数<sup>①</sup>。此外,正如影山太郎(2013: iii)明确指出:「もしこの種の表現形態が存在しなければ、日本語はいかに不自由な状態になるだろうかと想像してみれば、複合動詞が日本語という言語に不可欠の存在であることがよく理解できる(我们想象一下,如果没有这种表现形态,日语将会何等地不方便啊——由此我们便能充分理解,在日语中复合动词真的是一种不可或缺的存在)<sup>②</sup>」。可见复合动词举足轻重,是日语词汇的重要组成部分。

然而,对于日语学习者而言,复合动词是一大学习难点。以往的研究曾多次指出这一点,如森田(1978)有过如下叙述。

外国人が日本語を学ぶ場合、教科書によって与えられる動詞のほとんどは単純動詞である。学習者は個々の単純動詞の意味・用法には習熟するが、それらの動詞を組み合わせた複合動詞については、学習の機会があまりない。したがって、複合動詞に関する日本語力が不十分なまま上級段階に進んでしまい、圧倒的に多い複合動詞の波にぶつかって苦しまねばならぬ。複合動詞を形づくるそれぞれの部

① 参照森田(1978)「日本語の複合動詞について」。

② 本书中引自《中日对译语料库》(CJCS,北京日本学研究中心,2003年第一版,以下同)的例句译文基本引自《中日对译语料库》,但出于表达的规范化,个别用字有细微调整。其他引文及例句的汉语翻译均为笔者所翻。

分、すなわち個々の単純動詞が既習語であっても、それらが合成する意味が理解できるとは限らない。(外国人学习日语时,教科书中给出的动词基本上为单纯动词。学习者可以熟练掌握这些单纯动词的语义用法,却没有什么机会学习由这些词组成的复合动词。因此,在对复合动词掌握不够充分的情况下进入高级阶段的学习,学习者便遭遇为数众多的复合动词而苦不堪言。即便学过组成复合动词的每一个部分、也就是即使掌握了各个单纯动词,却未必就能理解由其组合而成的复合动词之语义。)

(森田 1978:73)

姫野昌子(1975)也指出日语学习者使用的复合动词要远低于日语母语者,从而导致「表現が単調で幼い(日语表达单调、稚嫩)」。

中国的日语学习者也同样存在这个问题。首先,从日语母语者和日语学习者接触的复合动词数量来看,日本国立国语研究所发布的『複合動詞レキシコン』<sup>①</sup>中收录复合动词 3 912 个,其中以“动词 1 连用形+动词 2”形式出现的典型复合动词词例 3 873 个<sup>②</sup>。然而新日本语能力考试 N1、N2<sup>③</sup>要求学习者掌握的复合动词词数为 226 个<sup>④</sup>,『複合動詞レキシコン』中的词例 221 个,只占到 5.71%。高等院校日语教学大纲<sup>⑤</sup>要求学习者掌握复合动词词数 459 个<sup>⑥</sup>,『複合動詞レキシコン』中的词例 412 个,占『複合動詞レキシ

① 详见本书附录,为 2015 年 11 月的版本。

② 由于本文主要探讨“动词 1 连用形+动词 2”形式出现的复合动词,因此「引っかかる」、「乗っ取る」、「抜き出す」等发生音便的词以及「取って返す」、「揺さぶる」、「見せびらかす」等很难复原为“动词 1+动词 2”的词暂不计算。

③ 此处参考的是《(红宝书)新日本语能力考试 N1 文字词汇》(华东理工大学出版社,2011)以及《(红宝书)新日本语能力考试 N2 文字词汇》(华东理工大学出版社,2011)中的收录情况。

④ 其中,「仕切る」等 5 个词收录在《(红宝书)新日本语能力考试 N1 文字词汇》或《(红宝书)新日本语能力考试 N2 文字词汇》而未出现在『複合動詞レキシコン』中。附录中词后带“\*”号的表示该词出现在《(红宝书)新日本语能力考试 N1 文字词汇》或《(红宝书)新日本语能力考试 N2 文字词汇》中。

⑤ 此处参考的是《(高等院校日语专业)日语教学大纲词例解析(高年级阶段)》(大连理工大学出版社,2009)以及《(高等院校日语专业)日语教学大纲词例解析(基础阶段)》(大连理工大学出版社,2008)中的收录情况。

⑥ 其中,「待ちかねる」、「決めかねる」、「聞き慣れる」、「走り続ける」、「泳ぎ疲れる」、「痛み出す」、「浮き出す」、「言い合わせる」、「来合わせる」、「結び合う」、「近づき合う」、「言い過ぎる」、「言いかける」等 47 个词收录在《(高等院校日语专业)日语教学大纲词例解析》(含高年级阶段和基础阶段)而未出现在『複合動詞レキシコン』中。附录中词后带“△”号的表示该词出现在《(高等院校日语专业)日语教学大纲词例解析》(含高年级阶段和基础阶段)中。

コン』的 10.6%。即便是复合动词学习词典,《例解日语复合动词手册》(外语教学出版社,2008)中收录的复合动词词例为 701,占「複合動詞レキシコン」的 18.1%。

虽然完全按照『複合動詞レキシコン』进行数量统计这一做法也有不合理的地方<sup>①</sup>,但这从侧面反映出日语学习者接触的复合动词词数与母语者存在巨大差异,也在很大程度上提示了导致学习者复合动词习得不足的原因。

习得不足的最大表现便在于,在学习者的表达中,“不会使用/回避使用”复合动词的现象十分普遍,如:

(1-1) いつも嫌みを言ってくる同僚に、思い切って言い返したんだ。(对总是前来挖苦的同事,这次狠狠地顶了回去。)

(日语母语者)

而日语学习者则基本不会使用「言い返す」,多数使用「言葉を返す」这样的形式来表达<sup>②</sup>。

同时,正如陈曦(2008)、邹奇凤(2015)指出,在学习者尝试使用复合动词时,“误用”也频繁出现,如:

(1-2) 解放改革の都市として、いろいろ外部からの文化でも、例えば、カラオケのような、ことでも受け入れて(→取り入れて)、いろいろやっていますね。(作为改革开放的城市,也吸收了各种各样的外部的文化,比如,卡拉OK之类的也在其中。)

(陈曦 2008:180)

(1-3) たばこの問題は、吸う人だけの問題ではない、あらゆる人の問題だと思う。たばこを吸うことはよく考えると、いいことは一つもない、思い出せる(→思いつく、思い浮かべる)のはほとんどよくない影響である。(烟的问题,并不只是吸烟人的问题,而是所有人的问题。仔细想想抽烟这件事,百害而无一利,想到的都是它带来的坏影响。)

(陈曦 2008:181)

① 在『複合動詞レキシコン』中,同音(同源)词经常被作为不同词例收录,比如「取り出す」和「採り出す」、「飛び乗る」和「跳び乗る」、「探し出す」和「捜し出す」、「作り出す」和「造り出す」。

② 笔者于 2016 年 7 月至 2017 年 1 月期间面向复旦大学、上海外国语大学、天津外国语大学及东南大学的日语高年级学生实施过复合动词使用情况问卷调查,此处参考了该调查的结果。

甚至在某些时候还会出现复合动词“过度使用”的情况,如:

(1-4) 春節の日掃除することは禁止です。掃除すると、運も持ち離れる(→離れる)と言われてます。(大年初一是禁止打扫的。据说,这一天打扫卫生,会把好运都带走。)

(陈曦 2008:181)

那么,复合动词究竟难在哪里? 陈曦(2010)指出,就学习者的习得情况而言,句法性复合动词要远好于词汇性复合动词<sup>①</sup>,因此词汇性复合动词的学习成为难点。松田文子(2004)则认为复合动词主要难在以下三个方面。

1. 「結合条件」に関するもの:

① どんな動詞と結びつくのか分からない。そのため勝手に単語を作り出す危険性がある。

2. 「単純動詞」と「複合動詞」の使い分けに関するもの:

② 「書きこむ」という言葉を知っていても「書く」と「書き込む」をどう使い分けてよいか分からない。そのため「書きこむ」の方が適切な場合であっても「書く」で間に合わせてしまう。

③ 「一こむ」の意味は「飛びこむ」のような事例から「中に入る」ことだと思っている。しかし「入りこむ」や「埋めこむ」は「入る」や「埋める」自体がすでに「中に入る」ことなのに、なぜ「一こむ」をつけるのか分からない。

3. 「習得の方法」に関するもの:

④ 「一きる」や「一こむ」などと結合する複合動詞の数は非常に多く、その意味は単に「V1 の意味 + V2 の意味」だけでは理解することが出来ない。

⑤ 「座る」(単純動詞)と「座りこむ」(複合動詞)の意味の違いを知りたい時辞典を引くが、説明が十分ではない。

⑥ V1 の意味と V2 の意味を足してもその意味が分からない時、それぞれを母語に対訳して理解しようとするが、あまり効果がない。

(1. 关于“结合条件”:

① 参照陳曦(2010)「第二言語としての二種類の複合動詞の習得—コーパスによる学習者の使用実態調査をもとに」。句法性复合动词和词汇性复合动词的分类详见本章 1.2。

① 不知道能和什么样的动词结合,因此存在随意造词的危險。

2. 关于“单纯动词”和“复合动词”的使用区别:

② 即便认识「書きこむ」,但不明确「書く」和「書き込む」有何区别,因此,该用「書き込む」时使用「書く」来凑合。

③ 从「飛びこむ」等词例中认识到「一こむ」表示“向内”的语义,但无法理解在「入りこむ」、「埋めこむ」中,「入る」、「埋める」自身已有“向内”的语义,为何还要与「一こむ」互相组合?

3. 关于“习得方法”:

④ 能和「一きる」、「一こむ」等结合的动词为数众多,复合动词语义无法单纯地从“V1 语义+V2 语义”加以理解。

⑤ 想了解单纯动词「座る」和复合动词「座りこむ」的区别而去查词典时,词典中的说明不够充分。

⑥ 通过“V1 语义+V2 语义”无法理解其语义时,尝试通过对照母语来进行理解,但也效果甚微。)

(松田 2004:2)

正如松田(2004)所指出的那样,对日语学习者尤其是中国的日语学习者来说,「読み始める」、「読み終わる」、「押し倒す」这样的复合动词并不难,难的是从前后项无法推断出复合动词语义的情况,尤其是汉语中不存在相应的动词或动补结构的情况。如:

(1-5) 派遣会社の社員という意識は極めて薄く、条件の良い工場で働くために派遣会社を選んで渡り歩く。(“我是这家派遣公司的员工”这一意识极为淡薄,为了到条件好的地方工作而有选择地频繁跳槽。)

(少納言:深沢正雪『パラレル・ワールド』<sup>①</sup>)

① 本文引自「少納言 KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』」的例句标记为(少納言:著者『作品名』)(如(少納言:深沢正雪『パラレル・ワールド』)),翻译作品标记为(少納言:著者著訳者訳『作品名』)(如(少納言:ウィルキー・コリンズ著小池滋訳『ウィルキー・コリンズ傑作選』)),『国会会議録』等作者不明确的情况标记为(少納言:『作品名』)(如(少納言:『国会会議録』))或(少納言:編集者編『作品名』)(如(少納言:デイリースポーツ編『愛すべき長嶋語録』)),媒体资源标记为(少納言:メディア名日付)(如(少納言:広報ずし 2008 年 12 号));引自《中日对译语料库》的例句标记为(CJCS:著者『作品名』)(如(CJCS:谷崎潤一郎『痴人の愛』));引自其他出版物的例句标记为(『作品名』)(如(『第 52 回全国小・中学校作文コンクール作文優秀作品集—中学校』));引自朝日新闻站内搜索等网络媒体的例句标记为(メディア名日付)(如(asahi20090125))。

汉语中没有由“渡”和“步”结合而成的动词,因此对于学习者而言,首先「渡り歩く」的语义很难猜测;其次即便了解“走遍(各个地方)、干遍(各个工作)”这一语义,在表达“换工作”时,恐怕也会先说成「転職する」,而不会使用「会社を渡り歩く」。再如以下例子:

(1-6) 暴風により掲示板が吹き飛ばされたり、住民がけがをしたりするのを防ぐのが目的。(目的是防止广告牌被暴风吹走、居民受伤等。)

(asahi20050906)

(1-7) 表彰状読み上げで、「内閣総理大臣杯朝青龍明德殿」の「杯」を読み飛ばす場面もあった。(还出现过读奖状时,把“内阁总理大臣杯朝青龙明德阁下”中的“杯”给读漏掉的情况。)

(asahi20090125)

(1-8) そしてその間は断じて遊び半分の気分を許さず、びしびし叱り飛ばしました。(而且在这段时间里不停地教训她,绝不允许她边学边玩。)

(CJCS:谷崎潤一郎『痴人の愛』)

(1-9) 「こうやって外へ出て。警察に逮捕されて共犯にされるのも厭だし、ギャングの手に落ちて、香港に売り飛ばされるのもご免だし。お願い」と云ったのである。別に怯えているようでもなかった。“你就这样出去吧!我可不想要被警察逮捕、被当作共犯,也不想落到黑社会手里再被卖到香港。求你了。”她这样说道,似乎并没有害怕什么。

(少納言:阿久悠『銀幕座二階最前列』)

学习者从「吹き」和「飛ばす」大概可以猜测「吹き飛ばす」表示“吹飞、吹走”,但是对于「読み飛ばす」、「叱り飛ばす」、「売り飛ばす」,则似乎无法将前后项相加来获得复合动词的语义,这无疑导致了学习者的理解困难。尤其当复合动词中的前后项要素以假名出现时,中国学习者借以帮助理解的工具“汉字”消失,导致复合动词的理解难度进一步加深,如:

(1-10) 練習後は、いつも関西弁でやかましくしゃべりまくっている。(练习结束后,总是操着一口关西腔说个不停。)

(asahi20090125)

(1-11) しかし謙信の胸中にはさまざまな感慨や思考が嵐のごと



く吹きまくっているはずである。(然而在谦信心中,各种感慨思绪翻滚,如风暴般刮了起来。)

(少納言:南原幹雄『謀将山本勘助』)

「しゃべりまくる」、「吹きまくる」的语义无法由前后项简单相加而成,不仅如此,「まくる」由于没有写成汉字而使得学习者无法积极联想,这恐怕是最困扰学习者的地方。

然而,语义无法由前后项简单相加的复合动词、尤其是后项语义多样难以猜测的复合动词大量存在,如:

- (1-12) a. 真っ先に駆けつける(最先赶到)  
 b. 行きつけている店(常去的店)
- (1-13) a. 草を押し切る(把草割断)  
 b. 澄み切った秋空(清澈通透的秋日天空)
- (1-14) a. 槍で天井を突きぬく(用长矛把天花板戳穿)  
 b. 最後まで走りぬく(跑到最后)  
 c. 借金で困りぬく(因债务而苦恼不已)
- (1-15) a. 土砂をポンプで吸い上げる(用泵把沙土吸上来)  
 b. 小説を書き上げる(写完小说)  
 c. 私の見たすべてを申し上げます(一一奉告我所看到的一切)

(1-12)a 的「駆けつける」义为“赶到”,「つける」表示“到达”;b 的「行きつける」义为“常去”,「つける」表示前项成为惯常性的动作。(1-13)a 的「押し切る」义为“截断”,「切る」表示“断裂”;b 的「澄み切る」义为“清澈”,「切る」表示前项的程度很深。(1-14)a 的「突きぬく」义为“捅穿”,「ぬく」表示“穿透”;b 的「走りぬく」义为“跑完”,「ぬく」表示前项的完成;c 的「困りぬく」义为“伤透脑筋”,「ぬく」表示前项的程度很深。(1-15)a 的「吸い上げる」义为“吸上来”,「上げる」表示“由下而上的移动”;b 的「書き上げる」义为“写完”,「上げる」表示前项的完成;c 的「申し上げる」义为“陈述”,「上げる」表示一种自谦。

正如杨晓敏(2014)通过调查指出,在「V<sub>1</sub>上げる」中,复合动词的学习难易度随着「上げる」的语义而发生变化<sup>①</sup>。在上述词例中,a 组复合动词的

① 详见杨晓敏(2014)「中国人学習者のための複合動詞指導方法に関する一考察——「～上げる」を例に」。